

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 平成 27 年 12 月 28 日(月) 13:00～14:30
平成 28 年 1 月 27 日(水) 13:00～14:30

1. 初期支援 (はじめのかかわり)

メンバー 瀬下、小川、水落、早川、柳本、星野、丸山、長谷川、高橋、武田、小島、梨本、前山、星野(直)

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組めましたか?	0	12	1	0	13 (14)

前回の改善計画
職員が利用者に対して統一したケアを行うためには、利用者やその関係者から得る情報を把握し、共有されることが不可欠であり、共有するためには記録に残しておくことが必要であるが、そこが現在不足している部分である。職員から話を聞くと、それぞれが関わりの中で得る情報はたくさんあるのでそれを記録に残し職員間で共有することを重点的に取り組む。利用者一人ひとりに時間をかけてゆっくりと話をすることが難しい中でも、入浴時や周辺ケアなどの一対一の時間を大切にして意識的に関わりを持ち、様々な情報を引き出していく。

前回の改善計画に対する取組み結果
職員一人ひとりが利用者と意識的、積極的に関わりを持つようになり、以前と比べて得られる情報は多くなった。お試し利用も良い効果が得られていると思われる。記録に残すという部分でも全体的に意識が上がったと感じている。得られた情報を有意義に活用できるかが今後の課題となる。個々の関わりを持てるようになったという職員がいる一方で、あまり変わらないという職員もいた。誰かが利用者に関わっている間に、誰かが他業務をやらなければならないのは仕方がないことであるが、職員同士、互いに声を掛け合いながらバランスよく関わるができるようになると良いと思う。という意見も聞かれた。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	利用者の情報やニーズについて、利用開始前にミーティング等を通じて共有していますか?	4	10	0	0	14 (14)
②	ミーティングにおいて、かかわりの初期の目標を共有できていますか?	2	11	1	0	14 (14)
③	利用者がまだなれていない時期に、訪問や通いで、声掛けや気遣いができていますか?	7	6	1	0	14 (14)
④	初期の目標を念頭においたケアができていますか?	2	6	6	0	14 (14)

できている点
新規利用に際し、施設見学やお試し利用を勧め、本利用前に職員との顔合わせを行うことでスムーズな利用開始に繋がるよう心掛けている。また、事前に得た情報をまとめ、ミーティング時に職員に伝達し情報共有を図っている。利用開始後、慣れていない利用者に積極的に声をかけるなど、職員それぞれが関係作りに努め、利用者の言動や関わりの中で得た情報を記録に残すようにしている。1対1での関わり以外にもレクリエーションを通じて、他利用者との関わりも深めながら情報の引き出しを行っている。

できていない点
職員それぞれが関わりの中で得た利用者の情報を支援記録に残しているが、その情報を職員全員が共有し同じ認識で支援にあたるのがすぐにはできず、同じことを何度も確認してしまうことがあった。情報のまとめができていないため、せっかく得た情報をうまく活かさない事例もあった。業務に追われ記録しようと思ったことがその時にできなかつたり、記録をじっくりと読む時間がないという職員もいた。介護職員は、利用者本人に一番身近で関わることができ「利用者の気持ち」を努めて把握するようにしているが、反対に介護者との関わりが薄く、「介護者の気持ち」に触れる機会が少なく、家庭状況や介護者が負担に感じていること、不安や困りごとを直接確認し把握することができない。依頼から利用するまでの期間が極端に短い場合や、利用者本人の意向が無視され「とりあえず利用できればいい」という、家族の介護負担軽減ばかりに目が行き過ぎている事例もある。

次回までの具体的な改善計画
施設でのミーティング以外で、これまで、事前面談や担当者会議の開催、関係機関との連絡は主として管理者(兼ケアマネ)が実施していたが、あらかじめ予定することができる会議等においては介護職員も参加し、利用者が普段どのような思いを持ち、サービスを利用しているのかを関係者に直接伝え、また、利用者を自宅でみている介護者の「気持ち」に触れたり、利用者が現在おかれている状況を介護職員が直接確認できる機会をつくることで、現状を把握したうえで、より「利用者の気持ち」に沿った支援が提供できると考えている。
初期支援においては、事前面談時に介護職員ができる限り同行し複数職員で状況確認をすることで利用開始後もスムーズな支援、サービス提供が行えるようにする。利用開始後1ヶ月を目途に計画の見直しを行い、家庭状況や「利用者の気持ち」に沿った適切なサービス利用を提案、実施できるように努める。また、初期対応の記録用紙を作成、活用し、情報共有がスムーズに行えるようにする。

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 平成 27 年 12 月 28 日(月) 13:00～14:30
平成 28 年 1 月 27 日(水) 13:00～14:30

2. 「～したい」の実現 (自己実現の尊重)

メンバー 瀬下、小川、水落、早川、柳本、星野、丸山、長谷川、高橋、武田、小島、梨本、前山、星野(直)

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組めましたか?	0	9	4	0	13 (14)

前回の改善計画
それぞれの利用者が持つ課題、目標が明確でないと介護職員も何をすればよいのかわからない。日々の関わりの中で見えてくる情報や「～したい」という思いを職員全員が共有し、それに即した目標設定を行う。毎月行っているケアホーム会議で現在行っているような対応検討ではなく、明確になった目標に対してどのような支援を行っていくかということ話し合う場にしていく。以前内部研修でひもときシートを用いて一人の人のことを考えた。職員それぞれが違う見方をしているものもあり、大変有意義であった。そのような深く掘り下げるような話し合いを定期的に行っていきたい。

前回の改善計画に対する取組み結果
個別検討をケアホーム会議で行うのではなく、毎日のミーティング時に利用者 1～2 名の検討を実施するよう変更した。現状に即した明確な目標設定や援助内容の検討ができている利用者とそうでない利用者がある。そうでない利用者についても目標自体が現状に即していないケースと職員全員への共有が不足しているケースに分かれる。12 月より新たに作成した書式を活用し、利用者の状況確認や支援内容の評価を同時に行い、より具体的で、現状に即した目標設定や支援内容の検討が行えるように取り組みを開始した。

◆今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	「本人の目標 (ゴール)」がわかっていますか?	0	10	3	0	13 (14)
②	本人の当面の目標「～したい」がわかっていますか?	1	10	2	0	13 (14)
③	本人の当面の目標「～したい」を目指した日々のかかわりができていますか?	1	6	6	0	13 (14)
④	実践した (かかわった) 内容をミーティングで発言し、振り返り、次の対応に活かしていますか?	1	8	3	1	13 (14)

できている点
職員それぞれが利用者一人ひとりに関わる時間を意識して持つようになり、関わりの中で得られた「利用者の気持ち」や「思い」等の情報をこまめに記録する習慣がついてきた。日々のミーティングで気付きや課題を話し合い、適宜対応を検討している。利用者それぞれに担当をつけ、担当を中心に利用者の気持ちや「～したい」という思いを引き出そうと取り組んでいる。これまでは、ケアホーム会議でまとめて行っていた利用者の個別検討を、ミーティング時に行い、また、新たな書式を活用することで、今までよりもタイムリーに、より具体的な話し合いが徐々できるようになっている。

できていない点
利用者本人が意思表示できない方も多く、支援内容を検討する際に家族の希望に重点を置いてしまいがちになり、「本人の目標」という認識が薄い事例がある。「できない」という先入観が働いている事例もあるのではないかと。日々の関わりの中で利用者が「～したい」という思いを理解する機会が以前に比べて増えたが、検討が進まず具体的な目標が設定されていない事例がある。ミーティング時の個別検討で利用者の思いやそれを達成する為の支援内容について深く掘り下げることができなかった。目標に対して進展が見られない場合、支援内容がマンネリ化してしまい、支援したことで満足してしまっていることがある。支援内容に対する評価が不足していると感じることがある。「なぜ、進展しないのだろうか?」「こうしてみたらどうだろうか?」といったところまで意識できていない、検討できていない利用者もいる。

次回までの具体的な改善計画
利用者の個別検討が表面上で終わることなく、利用者の「～したい」という目標が達成された姿、状態をイメージし、そのイメージを職員全員が共有しながら支援内容について検討していく。日々のかかわりの中で得た情報、気付きを話し合い、目標達成状況や支援内容を適切に評価し、適宜改めていくという流れがごく当たり前になるような体制をつくる。

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 平成 27 年 12 月 28 日(月) 13:00～14:30
平成 28 年 1 月 27 日(水) 13:00～14:30

3. 日常生活の支援

メンバー 瀬下、小川、水落、早川、柳本、星野、丸山、長谷川、高橋、武田、小島、梨本、前山、星野(直)

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組めましたか?	0	9	2	2	13 (14)

前回の改善計画
 話がうまくできない利用者への対応においても、以前の暮らし方がヒントとなり、より本人の希望に沿った形での支援ができるのではないかと考えている。職員全員が利用者一人一人の以前の暮らし方を 10 個以上言えるようになることを目標として、意識して関わりを持つ中で、これまで見えなかったものが見えたり、新たな気付きにより、利用者が思う自分らしい生活を送っていただけるように取り組む。

前回の改善計画に対する取組み結果
 職員一人ひとりが日々のかかわりの中で、その方の以前の暮らし方や現在の思い、状況を知ろうとする意識は前回よりもできていると思う。「利用者が思う自分らしい生活」について分かりやすい人もいるが、分からない人がほとんどであり、また、望んでもかなわない方も多く、その辺りの取り組み方が難しいと感じている。今年度では、職員全員が利用者それぞれの以前の暮らしを 10 個以上把握することができなかった。

◆今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	本人の自宅での生活環境を理解するために「以前の暮らし方」が 10 個以上把握できていますか?	0	2	9	2	13 (14)
②	本人の状況に合わせた食事や入浴、排せつ等の基礎的な介護ができていますか?	8	5	1	0	14 (14)
③	ミーティングにおいて、本人の声にならない声をチームで言語化できていますか?	4	6	4	0	14 (14)
④	本人の気持ちや体調の変化に気づいたとき、その都度共有していますか?	5	8	1	0	14 (14)
⑤	共有された本人の気持ちや体調の変化に即時的に支援できていますか?	2	10	2	0	14 (14)

できている点
 基礎的な介護ができているのは当然のこととして、言葉に出ない気持ちが感じとれるようアンテナは張り続けている。体調の変化にも職員間で声を出し合い、共有、対応を行っている。家族に会う機会が介護職員は少ないが、送迎等でお会いした際に話を聞く等して、以前の暮らしを理解しようと努力した職員も多かった。記録を読んだり日々のミーティングで利用者の体調や状況変化を確認し情報の共有に努めた。職員それぞれが自分らしい関わり方で得た「気付き」を記録に残し、ミーティング等で情報共有することで、職員一人では気付かない変化にも対応し、その時の状況や利用者本人の気持ちや体調に沿った柔軟な対応、支援を検討し実施することを心掛けている。

できていない点
 対応の難しい利用者に対して、利用者の気持ちをくみ取れず、うまく対応できていないと感じることがあった。気持ちがくみ取れないのは、利用者の立場で物事を考えられていないからではないか。押しつけの支援は拒否されて当然だと思うし、見方を切り換えて様々なアプローチを検討していきたいと考えている。意思疎通が難しい方やうまくいかない方に対する「以前の暮らし方」等の情報収集が積極的に行えなかった。介護職員が実際、家族の方にお話しをうかがえるのは、送迎時くらいで、じっくりとお話しを聞ける機会がほとんどない状況である。本人に能力があり、それを活かして支援したいと考えるが、家族の協力を得られない利用者への対応が遠慮がちになってしまう。以前の暮らし方を知ることが難しい方も多い。家人より情報収集がしづらい事例もある。

次回までの具体的な改善計画
 利用者の気持ちや以前の暮らし方についての情報収集が以前に比べればできるようになってきたが、来年度においても、「以前の暮らし方の把握」を再度目標とし、職員一人が 2～3 個ずつ聞き取り、まとめて、利用者の理解を深め、今後の支援内容に組み込んでいく。利用者以外の家族や地域の方とのコミュニケーション不足を介護職員それぞれが感じているため、担当者会議への参加や互いに話し合いができる機会を設ける。

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	平成 27 年 12 月 28 日(月) 13:00~14:30 平成 28 年 1 月 27 日(水) 13:00~14:30
4. 地域での暮らしの支援	メンバー	瀬下、小川、水落、早川、柳本、星野、丸山、長谷川、高橋、武田、小島、梨本、前山、星野(直)

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	1	4	7	1	13 (14)

前回の改善計画
<p>今後は利用者が住む地域での生活を意識した支援を考えていきたい。社会資源がわからないという状況を改善し、職員が利用者一人ひとりと深くかかわり、その人を知っていく中で、家族のことや友人、地域のことが把握できるのではないかと思います。そこで得る情報を共有し、上手に活用するための検討を適宜行っていく。自宅に帰れば、自身も介護の専門家として地域の社会資源の一つであることを意識することも大切だ。</p>
前回の改善計画に対する取組み結果
<p>自分も地域の社会資源の一つという意識を持って、自分が生活する町内会の行事に参加するようにした。町内の老人世帯にも関心が向くようになった。職員一人ひとりが身近なところから地域の社会資源について意識するようになった。利用者が生活する地域の社会資源をうまく活用して在宅生活を支援するまでには至っていないが、意識して取り組んだことで日々の関わりから家族や友人、地域との関係性について得られる情報が増えている。</p>

◆今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	本人のこれまでの生活スタイル・人間関係等を理解していますか?	1	6	5	2	14 (14)
②	本人と、家族・介護者や地域との関係が切れないうちに支援していますか?	2	5	4	3	14 (14)
③	事業所が直接接していない時間に、本人がどのように過ごしているか把握していますか?	1	4	6	3	14 (14)
④	本人の今の暮らしに必要な民生委員や地域の資源等を把握していますか?	1	0	6	7	14 (14)

できている点
<p>利用者との関わりの中で、近所の方、友人、親戚、民生委員の方の情報を意識して聞くようにしている。社会資源のことを理解したうえで日々の関わりから徐々に家族や友人、地域との関係性がわかるようになってきた事例もあった。一人暮らしや訪問サービスを提供している利用者からは、地域資源についての情報が得られやすかったり、上手に活用することができた事例が多い。利用時にコミュニケーションをとるようにし、どういう方との付き合いがあるのか情報を集め、他職員にも伝えている。訪問でお伺いする利用者に関しては、在宅での過ごし方を把握する機会が多い。連絡ノートや送迎時に家族からの聞き取りを行い、在宅でどのように過ごされているか把握することに努めた。日々の会話や他職員からの情報により、その方の今までの生活等がわかり、それを意識した支援ができている。</p>

できていない点
<p>訪問サービスを提供している利用者の在宅での生活状況は把握しやすいが、通いサービスのみの方や在宅時は家族が対応しておられる利用者の生活状況がちゃんと把握できていない事例がある。「笛吹の里を利用していない日は家でテレビを見ているだけ」と言い、本人は「家にいたい」と思っても、家族の希望でほぼ毎日施設利用をしている事例もある。利用者一人ひとりの家族、友人、地域等との結びつきや関係性といった情報がまだまだ不足していると感じる。利用者が生活する地域にある社会資源をうまく活用し、施設利用でなく在宅で過ごす方法を考えたり、家族の不安を払拭できるだけの支援内容の提案ができない。本人と家族、家族と職員、それぞれの考え方に差がある。介護の専門職として発信力が不足しているのではないか。アドバイスやちょっとしたコツ等を伝え、介護力を高められれば…。その為には家族とじっくり話す機会があればいいと思う。</p>

次回までの具体的な改善計画	(200字以内)
<p>日々の連絡、送迎時の会話や担当者会議への参加で介護職員においても、家族との関わりをこれまで以上に深めていく。利用者の自宅での過ごし方や近隣住民との関わりを把握し、地域の情報も得ていく。はじめは身近な家族から。徐々に範囲を広げて、社会資源の活用を踏まえた利用者にとって、より良い支援内容の検討、提案する。</p>	

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 平成 27 年 12 月 28 日(月) 13:00～14:30
平成 28 年 1 月 27 日(水) 13:00～14:30

5. 多機能性ある柔軟な支援

メンバー 瀬下、小川、水落、早川、柳本、星野、丸山、長谷川、高橋、武田、小島、梨本、前山、星野(直)

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	0	10	1	1	12 (14)

前回の改善計画
利用者が生活する地域の社会資源をどうすれば上手に活用することができるか、協力体制を築くことができるかを職員が意識して関わり、その中で気付いたことを共有していく。一人暮らしであったり、家族が強い不安を感じている中でも、社会資源を上手に活用して、在宅での生活を支えていけるように様々な視点から支援方法を検討し提案する。

前回の改善計画に対する取組み結果
当事業所においては、一人暮らしよりも同居家族がいる利用者の方が、「通い」や「宿泊」の施設を利用するサービスを希望する頻度が多い。今年度は、社会資源を上手に活用し、「訪問」「通い」「宿泊」を組み合わせながら在宅での生活を中心に考える利用者が増えた。社会資源を活用し、在宅での生活を維持されている利用者を参考にし、そうでない利用者の支援内容を検討したが、家族の不安や考え方を覆す程の代替案することが提案できなかった。介護職員も意識して地域の社会資源についての情報収集を行うようになった。また、今年度は、施設において1件の看取り介護を実施、ターミナル期にある利用者の希望に沿うように可能な限りの対応を医療機関等と連携を取りながら実施した。

◆今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	自分たち事業所だけで支えようとせず、地域の資源を使って支援していますか?	0	5	5	2	12 (14)
②	ニーズに応じて「通い」「訪問」「宿泊」が妥当適切に提供されていますか?	5	8	0	0	13 (14)
③	日々のかかわりや記録から本人の「変化」に気づき、ミーティング等で共有することができていますか?	5	8	0	0	13 (14)
④	その日・その時の本人の状態・ニーズに合わせて柔軟な支援ができていますか?	5	8	0	0	13 (14)

できている点
利用者の中には、生活する地域の民生委員、町内会長や近隣住民の協力や関わりを得ながら、訪問サービス(家事援助、配食等)を活用し、在宅生活を中心としたサービス提供を受けたり、訪問診療や訪問看護、福祉タクシー等、自事業所以外のサービス、地域資源を活用した支援を受ける利用者が増えた。状況や体調に変化があれば、その都度、職員間や必要な場合は医療機関等に相談し支援している。利用者の変化に対し、細かな配慮で対応することができている。個別の状況に合わせて、施設利用時の居室を変更したり、「訪問」「通い」「宿泊」を組み合わせる柔軟な対応が行われている。利用者の状況や体調の変化について、記録に残したり、日々のミーティングで話し合い、状況に合わせた支援内容を検討している。

できていない点
地域の社会資源を活用しながら在宅生活を維持している利用者がある一方で、「毎日利用させてほしい」「ずっと泊まり利用をしたい」と家族の意向が先行する利用事例がまだまだある。「利用者の希望」と「家族の希望」が食い違い、利用者が施設ではできることも、在宅では発揮する機会すらない事例もある。小規模多機能居宅介護の「多機能」サービスがうまく機能できていない事例があるのは、当サービスについての説明が不十分で家族の理解が得られなかったり、理解していたとしても示した代替案が家族の不安を払拭するだけの支援内容となっていないためではないか。

次回までの具体的な改善計画
施設利用時ばかりでなく、在宅時の暮らしの把握に努める。施設利用が多い方は、地域の方や家族との関わりを多く持ってもらいたいという思いがある。家族とのコミュニケーションを密にとり、相談を受けたり、話し合いの場やともに利用者の支援を考えていく機会をさら増やし、理解や協力体制を築いていく。小規模多機能型の「多機能性」を活かしたサービスを提供していく。

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 平成 27 年 12 月 28 日(月) 13:00～14:30
平成 28 年 1 月 27 日(水) 13:00～14:30

6. 連携・協働

メンバー 瀬下、小川、水落、早川、柳本、星野、丸山、長谷川、高橋、武田、小島、梨本、前山、星野(直)

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	前回の課題について取り組めましたか?	1	5	5	1	12 (14)

前回の改善計画
これからも関係機関との連携を密に図り、利用者の希望する生活実現に向けた支援を行っていく。町内会から回覧版をまわしてもらうなど、今までとは別の方法でも、地域の活動、イベントなどの状況をこれまで以上に把握し、地域と施設との関係を深めていく。

前回の改善計画に対する取組み結果
医療機関や他事業所、関係機関など利用者に関わる資源と連携を図り、利用者それぞれが、適切に必要なサービス利用がスムーズに受けられるよう努めた。施設周辺の地域での交流は前回に増して多くなっており、施設行事や自衛消防訓練、研修会やボランティアによるお楽しみ会への参加、職員や利用者との交流が行われているが、利用者それぞれが生活する地域においては活動、イベント等の状況把握が進まず目立った発展は見られなかった。

◆今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	その他のサービス機関(医療機関、訪問看護、福祉用具等の他事業所)との会議を行っていますか?	4	2	1	3	10 (14)
②	自治体や地域包括支援センターとの会議に参加していますか?	2	1	0	8	11 (14)
③	地域の各種機関・団体(自治会、町内会、婦人会、消防団等)の活動やイベントに参加していますか?	3	1	4	4	12 (14)
④	登録者以外の高齢者や子ども等の地域住民が事業所を訪れますか?	6	8	0	0	14 (14)

できている点
利用者それぞれの主治医と連絡を取り、必要によって診察に同行し、利用者一人ひとりにあった適切な医療サービスが受けられるよう連携を図っている。また、自事業所サービス以外の介護、医療、福祉サービス(医療機関、訪問診療、訪問介護、福祉用具貸与、民生委員、その他)と連携を図り、定期的に利用状況や病状について確認を行っている。地域連絡会議に参加し、民生委員や関係機関と意見交換やコミュニケーションを図っています。今年度は地域包括支援センターと協働し困難事例について連絡を取り合いながら対応を行いました。近隣地域の小学校、保育園で行われたジャズコンサートや敬老会等のイベントに参加させていただきました。また、三郷地区で行われた防災講習会では AED の設置施設や小学校で保管している備蓄品を地域住民とともに確認しました。施設で年 2 回実施している自衛消防訓練には地域住民に参加いただき、夏に行った納涼祭では利用者家族のほか、近隣地域の方からも多数参加いただきました。他ボランティア設行事に参加いただくことで交流ができています。

できていない点
会議等は管理者が出席しているため、介護職員が他サービス機関や関係地域の会議に出席することがなく、また、業務外で外に出てコミュニケーションを図る機会がほとんどなかった。小学校、保育園など関わりの多い地域からは情報を直接いただくことも多くなったが、それぞれの利用者が生活する地域でのイベント、行事の情報収集が難しいと感じている。近隣町内から回覧版をまわしてもらうこともなかった。

次回までの具体的な改善計画
現在ある小学校や保育園、ボランティア等の交流は今後も継続、強化し、利用者や施設関係者以外にも、施設に足を運んでいただけるよう取り組んでいく。納涼祭、敬老会等の行事、腰痛予防研修や「ふえふき喫茶」などの企画のみでなく、一昨年より地域の団体と一緒に参加させてもらっている民謡流しや花ロード等の地域イベントにもすすんで参加したい。

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 平成 27 年 12 月 28 日(月) 13:00～14:30
平成 28 年 1 月 27 日(水) 13:00～14:30

7. 運営

メンバー 瀬下、小川、水落、早川、柳本、星野、丸山、長谷川、高橋、武田、小島、梨本、前山、星野(直)

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	前回の課題について取り組めましたか?	1	7	3	2	13 (14)

前回の改善計画
職員間の信頼関係を深め、誰でも、何でも言い合える、風通しが良く働きやすい職場環境を構築する。笛吹の里がここにあることは知っていても、小規模多機能型居宅介護とはなんだ?とっておられる方が多い状況が改善されるよう、地域に向けての情報発信を積極的に行っていく。

前回の改善計画に対する取組み結果
まだまだ職員間に遠慮や変な気遣いがあり、風通しの良い職場環境の構築には至らなかった。新しい介護形態が増加しつつも、一般市民の方は、身の回りで対象となる人がいなければ、その必要性を感じることがないのではないかという意見から、近隣地域の住民を対象とした施設イベントを開催し、毎回多数の方から参加いただいている。今年度は民生委員の会議やセミナーにも参加し、事業説明、事例発表を行いました。利用者からの評判を聞かれ、利用を検討される方もいらっしゃいました。

◆今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	事業所のあり方について、職員として意見を言うことができているか?	0	2	7	4	13 (14)
②	利用者、家族・介護者からの意見や苦情を運営に反映していますか?	1	5	4	3	13 (14)
③	地域の方からの意見や苦情を運営に反映していますか?	2	0	3	7	12 (14)
④	地域に必要とされる拠点であるために、積極的に地域と協働した取組みを行っていますか?	2	0	4	7	13 (14)

できている点
地域の方には行事や避難訓練、今年は腰痛予防講習を開催し参加いただいた。利用者、家族、介護者からの意見等は職員間で共有し、必要によっては苦情報告をあげ、対応の改善を図っている。今年度は、第6ブロック民生委員の会議に参加させていただき、「小規模多機能型居宅介護について」「ケアホーム笛吹の里について」の説明を行いました。また、定期巡回型サービス事業所主催の地域密着型サービスセミナーに参加し、利用事例を発表しました。当施設の利用者からの評判を聞き利用を検討される方が多数おられました。家族からの意見は丁寧に対応していますが、時としてそればかりだと家族の為のサービスになるリスクが高いので、もっと利用者の意見やニーズを引き出しながら、利用者本位のサービス提供ができるようにと、意識して取り組んでいます。

できていない点
職員によっては、いいたいことがあれば、直接いいあい、サービスをよりよくするための話し合いがいつでもできるような環境作りがまだできていない。小規模多機能型の役割と利用者の状況把握、個々の要求や必要性がまだ理解できていない。落ち着いて利用者との役割を考える時間を持てなかった。職員の中にも、小規模多機能型居宅介護とは何か、ちゃんと理解できていない人もいるのではないかと。施設全体での内部研修はあるが、小規模多機能型居宅介護に特化した勉強会を定期的にやってみてはどうかという意見が出た。私たちが精一杯やっていることがよい運営に繋がっていかればと思っている。今のところ、日々の利用者対応や業務で手一杯の状態。「事業所のあり方」や運営については正直意見はない。そういう方にも自分の仕事で手いっぱい、現場の意見を聞いたり、事業所のありかた、方向性の統一を図る機会が持てなかった。地域との関わりがまだまだ弱い。

次回までの具体的な改善計画
「小規模多機能型居宅介護」とは、どのような施設で、どのような役割や特徴を持ち、どのような利用の仕方があるのか等、ケアホーム会議で勉強会や研修を行い、職員の理解を深めていく。小規模多機能型居宅介護施設のあり方を理解した上で笛吹の里がどのような運営を行っていくべきか、自身の意見が言える職員の育成に努める。利用者家族、地域住民からの意見も、日々の関わりやアンケートの実施、運営推進会議等を活用してうかがい、より良い運営に繋げるための話し合いを定期的に行っていく。

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 平成 27 年 12 月 28 日(月) 13:00~14:30
平成 28 年 1 月 27 日(水) 13:00~14:30

8. 質を向上するための取組み

メンバー 瀬下、小川、水落、早川、柳本、星野、丸山、
長谷川、高橋、武田、小島、梨本、前山、星野(直)

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	3	4	3	3	13 (14)

前回の改善計画
内部研修への参加や外部研修の情報を職員に提供し自主的な参加を促し、互いが意識し刺激し合いながら、それぞれがスキルアップを図ることで全体の力量の底上げができ、質が向上できる環境を整える。 法人全体で研修についての見直しが行われている。それに沿って十分に研修を行うことができるようにする。
前回の改善計画に対する取組み結果
今年度は外部研修参加が施設全体で平成 26 年度の 5 件から平成 27 年度は 14 件と増加、内部研修の際に、それぞれの外部研修受講者が講師として他職員に研修内容を伝える伝達講習を実施しました。業務都合により内部研修に参加できない職員には研修資料を配布しました。また、自身のスキルアップの為、介護福祉や介護支援専門員の資格取得に挑戦しました。

◆今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	研修(職場内・職場外)を実施・参加していますか	4	5	2	3	14 (14)
②	資格取得やスキルアップのための研修に参加できていますか	3	3	3	5	14 (14)
③	地域連絡会に参加していますか	1	1	1	10	13 (14)
④	リスクマネジメントに取り組んでいますか	5	5	2	2	14 (14)

できている点
今年度は外部研修参加が増え、内部研修においても定例で行われているもの以外に、外部研修の参加者より伝達講習を行ったり、外部講師を迎えて研修を行う等、学ぶ機会を多く持つ事ができました。研修に参加できない場合も研修資料を配布し各自学習しています。リスクマネジメントについては、今年度は法人全体で事故報告書及びヒヤリハット報告書の書式を見直し、ヒヤリハット 300 件を目標として取り組み、笛吹の里全体では達成することができました。

できていない点
業務都合や家庭事情により内部研修に参加できない職員がいました。資料配布のみでは分からない事があるため、全員が参加できる開催方法を検討する必要があると考えています。また、内部研修の他に、小規模多機能居宅介護事業所に関連する内容の研修を行ってほしいという意見も聞かれました。リスクマネジメントについては、上記のとおり、ヒヤリハット 300 件の目標は施設全体では達成されていますが、ケアホーム単独でみると提出数は少なく、同様の事故が繰り返される事例がありました。

次回までの具体的な改善計画
今年度は毎月開催しているケアホーム会議の内容を見直し、これまでケアホーム会議で行っていた利用者個別検討は、現在、毎日のミーティング時に行っています。これにより空いた時間を活用して、外部研修の伝達や内部研修とは別の小規模多機能型居宅介護に関連する研修を計画的に実施します。リスクマネジメントについては、施設全体ではヒヤリハット報告 300 件の目標は達成されたが、ケアホーム単独で見れば提出数が少ない現状があるため、来年度はヒヤリハット年間報告数をケアホーム単独で 100 件を目標とし、職員全体が意識して取り組むことで事故発生件数を減らしたい。

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 平成 27 年 12 月 28 日(月) 13:00～14:30
平成 28 年 1 月 27 日(水) 13:00～14:30

9. 人権・プライバシー

メンバー 瀬下、小川、水落、早川、柳本、星野、丸山、長谷川、高橋、武田、小島、梨本、前山、星野(直)

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	4	7	0	0	11 (14)

前回の改善計画
現在行っている取り組みは引き続き継続し、できていない点で上がっている事例を一つ一つ解決する。

前回の改善計画に対する取組み結果
身体拘束、虐待防止はリスクマネジメント委員会が中心となり施設全体で取り組みを継続している。施設内での身体拘束はセンサーマットの使用を含めて該当する事例はなかったが、自宅では、家族の意向に沿い、身体拘束が続けられている事例がある。前回上げた「できていない点」の改善に職員それぞれが取り組み利用者対応に努めた一方で、プライバシー保護や個人情報の管理について、記録ファイルがテーブルに開かれた状態のまま利用者対応のためその場を離れたり、申し送り内容を他者に聞こえる声で話してしまったことがあった。また、職員の言動によっては、不適切ケアにあたるのではないかと思った職員がいても、自信を持ってその場で注意することができないという職員もいた。

◆今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	身体拘束をしていない	9	5	0	0	14 (14)
②	虐待は行われていない	11	3	0	0	14 (14)
③	プライバシーが守られている	6	7	1	0	13 (14)
④	必要な方に成年後見制度を活用している	1	1	1	3	6 (14)
⑤	適正な個人情報の管理ができています	4	8	1	0	13 (14)

できている点
施設利用時においては、職員の状況に応じた対応を行うことで、センサーマット使用を含み、身体拘束にあたる事例はない。スタッフ会議、毎日のミーティング等で、利用者個々の対応を検討し支援にあたっている。成年後見制度の活用を検討しはじめた利用者があり、在住地域の民生委員とも連絡を取りながら対応している。今年度は家庭における不適切事例に対応するため、サービス利用の見直しを図ったり、地域包括支援センターや行政等の協力支援を得ながら対応した。入浴や排泄等、他利用者の目に触れないよう個別に対応し羞恥心への配慮、プライバシー保護に努めている。

できていない点
家庭において、つなぎ服やミトンを着用している事例がある。それに対し代替策が提案できず、現在も身体拘束が続けられている。入浴時は同姓介助が望ましいのだが職員の勤務状況によりそれができない時がある。フロアのステーション周辺に職員が集まりミーティングを行っているが、次第に声が大きくなり、利用者へ検討内容が聞かれてしまうことがあった。自分がされたら嫌だな…と思う対応やケアをしてしまったことがある。また、不適切な言動だと思っても、それを行っていた職員に対してその場で指摘することができない職員もいた。テーブルの上に記録ファイルを広げたまま、利用者対応の為その場を離れることがあった。利用者に対する言動について、職員それぞれが自分なりに意識し改善しようとしていたが、チームの目標としなかった。

次回までの具体的な改善計画
前回から解決されていない点や今回新たに上がった「できていない点」を改善していく。今回の振り返りを機に「個人の目標」「チームの目標」を明確にして、ひとつひとつをしっかりと取り組み、ケアホーム会議の場で定期的に評価していく。言いたいことが言える、改善に向けた「話し合い」がいつでもできる風通しの良い職場環境を築き、最終的にはチームケアの質の底上げにつながるということを意識して取り組む。

